

▽発信元・お問い合わせ先はこちら
「人材ビジネスの発展を通じてヒトの成長を追求する」
株式会社ヒューマンビジネス・コンサルティング
TEL : 03-6909-8644/0120-973-644
E mail:info@hb-consulting.jp

本気で農業やりたい人求む パソナが育成事業参加者募る

人材派遣大手のパソナ(東京都千代田区)は来年1月から、芳賀町の耕作放棄地を使った就農支援事業「パソナチャレンジファーム」を始めると発表した。「本気でやる気のある人」を条件に、今月末から参加者を選考し、来年1月中旬にも現地でも研修を始めるという。

同事業は、耕作放棄地を有効活用しつつ、農家になることを希望する人を育成する。初年度は7～10人程度を募集する。同社によると、応募資格は特に設定していないが、農家になることや農業関係の企業を立ち上げたい人が対象だという。また「新卒の学生にも、就職先として農業を検討してもらいたい」としている。

参加者は最長で3年間、パソナの契約社員として雇用され、月給として20万円が支給される。会社が借り上げる町内の民家に共同で住みながら、3年後の独立を目指して栽培技術や経営の方法を学ぶ。研修のための農地は芳賀町の農家から借りた耕作放棄地約3ヘクタールを使い、指導は同社が運営する農業ビジネススクールの講師らが担当する。

自治体からの協力も取り付けた。県の「ふるさと雇用再生畑作経営モデル事業」に認定され、人件費として約1900万円の補助を受けた。芳賀町からは、耕作放棄地再生のための交付金を受けることが決まっている。県農政課では「地域には担い手がない半面、若者が就農しようとしても敷居は高い。参加者にはなんとか地元にも根付いてほしい」と期待を込める。福田富一知事も「新たな就農対策として期待を寄せている」とし、県は地元の農業振興事務所を通じて地域と参加者の交流を支援する予定だ。

パソナでは、2003年から農業による雇用拡大を目指して、都市部での地下農園や農業ビジネススクールの運営などを進めてきた。08年には兵庫県の淡路島で初めて「チャレンジファーム」を実施し、7人の参加者枠に約100人が応募したという。

2例目となる今回の参加希望者への説明会は、20、22の両日に東京のパソナ本社で、21日に宇都宮市馬場通り1丁目のパソナ宇都宮で開かれる。申し込みと問い合わせは同社農業プロジェクトチーム(03・6734・1070)へ。

平成 22 年 12 月 17 日 朝日新聞